

国際会議関係報告

第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議 (2nd APCAE) 「電子時代におけるアーカイブズ学研究とアーカイブズ学教育」

会議概要

人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系
安藤 正人

会議の企画と運営

「第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議」(2nd Asia-Pacific Conference for Archival Educators and Trainers)は2006年10月17日(火)から20日(金)までの4日間、東京都豊島区目白の学習院大学を主会場に、13カ国約30人の海外参加者を含む延べ約300人の参加者を得て開催された。主催、共催、後援は以下の通りで、このほかに20社近くの企業から協賛をいただいた。

主催：国際文書館評議会専門職教育研修部会、第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議実行委員会

共催：日本アーカイブズ学会、学習院大学、東京外国語大学21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、科学研究費補助金「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基盤構築に向けての研究」

後援：国立公文書館、人間文化研究機構国文学研究資料館、記録管理学会、企業史料協議会、駿河台大学、ARMA International東京支部

なお、この会議を実質的に企画・運営した実行委員会のメンバーは、委員長高橋実(2006年3月までは丑木幸男、いずれも人間文化研究機構国文学研究資料館)、副委員長青山英幸(国際文書館評議会専門職教育研修部会常任

委員)、委員青木睦(国文学研究資料館)、荒木一彦(国立公文書館)、安藤正人(国文学研究資料館)、石原一則(神奈川県立公文書館)、小原由美子(国立公文書館)、小谷允志(ARMA International)、佐藤信勝(栃木県立文書館)、高埜利彦(学習院大学)、保坂裕興(駿河台大学)、前川佳遠理(国文学研究資料館)、森本祥子(国立国語学研究所)、吉田ゆり子(東京外国語大学)の各氏であった。実行委員会事務局は人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系が担当した。

国際文書館評議会専門職教育研修部会(ICA/SAE)は、アーカイブズ学研究とアーキビスト教育の振興を目的に、1988年より国際シンポジウムを開催してきた。2000年からは地域内での連携強化のため、新たにヨーロッパ地域(2001年ドイツ、2003年スウェーデン)、アメリカ地域(2003年)、太平洋地域(2002年オーストラリア)で地域国際研究集会を開催し、成果をあげてきた。アジア地域でも、2004年4月に中国人民大学档案学院(北京)において「第1回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議」が開かれ、欧米を含む9カ国約70人が参加した。その際、第2回会議の開催場所として日本が提案され、今回実現にいたったものである。

会議の全体テーマは「電子時代におけるアーカイブズ学研究とアーカイブズ学教育」とし、社会のIT化・情報化が招く現代的な共通課題(行政文書をはじめ膨大な情報を選別する理論と方法の確立、電子ファイル文書の真正性保証や管理・保存の問題、情報公開や個人情報保護制度の拡充にともなう問題等)を討議しようと企画した。また同時に、植民地化や戦争の問題を中心とするアジア太平洋

地域の歴史的背景を踏まえ、この地域の人々の歴史認識にとって極めて重要な課題である記録の共有化に向けて、アーキビストの果たす役割を中心に議論することを本会議の特色にしたいとも考えた。

会議は10月17日の開会式とオープニング・ディナーに始まり、第1部「専門セミナー」(10月18日、19日)と第2部「公開講演会」(10月20日)の2部構成とした。第1部「専門セミナー」はアーカイブズ学研究者や教育者を主な対象とした学術セミナー、第2部「公開講演会」は、専門セミナーの外国人招待報告者3名による研究者・学生・一般市民向けの講演会で、現代におけるアーカイブズの意義とアーキビストの役割について理解を広げる機会にしたい、と企画したものである。以下、順に概要を紹介したい。

開会式とオープニング・ディナー

10月17日(火)午後5時半から国立公文書館に近いKKRホテル東京で開催され、約80人が出席した。高橋実実行委員長の開会挨拶のあと、主催者を代表してハンス・シュクコーグルICA/SAE委員長がスピーチし、続いて菊池光興国立公文書館長が来賓挨拶を行った。オープニング・ディナーでは、高埜利彦日本アーカイブズ学会会長、宮崎恒二東京外国語大学副学長、石井米雄人間文化機構長、馮恵玲中国人民大学副学長、ラリー・イーリングICA/SAE副委員長が、それぞれスピーチを行った。最後に小谷允志記録管理学会会長が開会挨拶をして会を締めくくった。

専門セミナー

本会議の中心行事である専門セミナーは、学習院大学百周年記念会館小講堂を会場に、あらかじめ参加登録を行った約80人が出席して開催された。セミナーは、(1)アーカイブズ学教育の過去・現在・未来、(2)歴史アーカイブズと現代アーカイブズのための教育、(3)脱保管(ポスト・カストディアル)のアーカイブズ学教育、の3セッションに分かれ、各セ

ッションは主報告1本と副報告5本～9本から構成された。報告本数は合計22本(内1本は報告者欠席のため実質的には21本)、うち主報告3本は外国人招待者によるもの、また副報告は国内・国外から広く公募して実行委員会が選考した。各セッションの報告者と報告タイトルは次の通りであった。なお報告はいずれも英語で、また討論は英語と日本語で行われたが、専門業者による日英同時通訳が円滑であったため、セミナーの進行に大きな支障はなかった。

10月18日(水) 09:00～17:30

開会式

- ・開会挨拶(ハンス・シュクコーグルHans Scheurkogel ICA/SAE委員長、オランダ)
- ・第1回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議(北京)をふり返って(王健Wang Jian、中国)
- ・専門セミナーの趣旨(青山英幸実行委員会副委員長)

第1セッション「アーカイブズ学教育の過去・現在・未来」

Session 1 The Archival Education: Past, Present and Future

- ・主報告: キャロライン・ウィリアムズ(イギリス)「アーカイブズ学教育者—変貌する世界におけるその役割、性格、関心事、認識—」Caroline Williams, The archival educator: role, attributes, preoccupations and perceptions in a changing world
- ・保坂裕興(日本)「日本のアーカイブズ学とアーカイブズ教育」Hiroomi Hosaka, Archival science and archival education in Japan
- ・小原由美子(日本)「日本の公文書館専門職員を育てる—国立公文書館における研修プログラムの発展—」Yumiko Ohara, Fostering professional staff of archives: development of the training programs in the

National Archives of Japan

- ・ 薛 理桂 (台湾) 「台湾におけるアーカイブズ学教育の現状」 Li-Kuei Hsueh, The current status of archival education in Taiwan
- ・ ヴー・ティ・フン (ベトナム) 「ベトナムにおける大学レベルのアーカイブズ専門職養成40年—その評価、21世紀における需要予測と対策—」 Vu Thi Phung, Forty years of training university-level experts of archives in Vietnam: assessment, prediction of demand and solutions for training in 21st century
- ・ アゼミ・アブドゥル・アジズ (マレーシア) 「自分たちの経験を分かち合う—記録管理・保存・製本に関するマレーシア技術協力プログラム」 Azemi Abdul Aziz, Sharing our experience: Malaysian technical cooperation programme on records management and conservation and bookbinding course
- ・ トゥクル・カイク (パプア・ニューギニア) 「パプア・ニューギニア (ならびに太平洋地域諸国) におけるアーカイブズ学教育の事例」 Tukul Kaiku, Archival education encompassing examples in Papua New Guinea (including the Pacific islands nation states of the Pacific region)
- ・ エリザベス・シェパード (イギリス) 「イギリスのアーカイブズ学教育60年、1947～2006 —過去と未来を見つめて—」 Elizabeth Shepherd, Sixty years of archival education in England, 1947-2006: looking back and looking forward
- ・ パトリシア・ワトレー、キャロライン・ブラウン (イギリス) 「遠隔学習と遠隔教育—21世紀の戦略—」 Patricia Whatley/Caroline Brown, Learning and teaching at a distance: strategies for the 21st Century
- ・ アンネ・ジランド (米国)、ヤン・ルー、ケルヴィン・ホワイト 「アーカイブズ・パラダイムの多元化—環太平洋コミュニティにおけるアーカイブズ学教育の必要度評価—」 Anne Gilliland/ Yang Lu/ Kelvin White, Pluralizing the archival paradigm: A needs

assessment for archival education in Pacific Rim communities

- ・ 第1セッション討論

10月19日 (木) 09:00～17:40

第2セッション「歴史アーカイブズと現代アーカイブズのための教育」

Session 2 Harmonization of Education on

Historical Archives and Contemporary Archives

- ・ 主報告: ルチアナ・ドゥランチ (カナダ) 「アーカイブズ学教育のモデル—1つの統合されたモデルか、2つか、それとも無数か?—」 Luciana Duranti, Models of archival education: one, two, or a thousand?
- ・ 高松洋一 (日本) 「オスマン朝アーカイブズの特徴とトルコにおけるアーカイブズ学教育」 Yoichi Takamatsu, Characteristics of the Ottoman archives and archival education in Turkey
- ・ アンナ・シュレイヤー (アルゼンチン) 「‘アクセス時代’におけるアーカイブズ学教育」 Anna Szlejcher, The archival teaching in the "Age of Access"
- ・ ペーター・ブルム (ドイツ) 「アーカイブズの管理職—継続的現職研修に関心ありや抵抗ありや—」 Peter Blum, Archives executives - interested in or resistant to further vocational training?
- ・ マイケル・クック (イギリス) 「未知への前進—英国のアーカイブズ学・記録管理学教育における新しい問題—」 Michael Cook, Advancing into the Unknown: New issues in ARM education in the UK
- ・ 吉田千絵 (日本) 「アーカイブズ学トレーニングにおける国際協力に対する一提言」 Chie Yoshida, One proposal for international collaboration in archival training
- ・ 第2セッション討論

第3セッション「脱保管（ポスト・カストディアル）のアーカイブズ学教育」

Session 3 The Archival Education in

Post-custodial Environment

- ・主報告：カレン・アンダーソン（オーストラリア）「将来に向けて—既知の課題と未知の課題、未来の専門職のために—」 Karen Anderson, Looking forward: preparing future professionals for the known and the unknown
- ・フェルナンダ・リベイロ（ポルトガル）「科学情報パラダイムと脱保管時代のアーカイブズ・トレーニング—ポルトガルのモデル—」 Fernanda Ribeiro, The archival training in the 'post-custodial' era, in accordance with a scientific-informational paradigm: the Portuguese model（報告者欠席のため割愛）
- ・ジェームス・カラル/マイケル・モス（イギリス）「私たちはアーキビストである。しかしこれでいいのか？」 James Curral/ Michael Moss, We are archivists, but are we ok?
- ・シルビア・シェンコルスキー・クロル（イスラエル）「情報学研究の一部としてのアーカイブズ学教育—イスラエルの事例—」 Silvia Schenkolewski-Kroll, Archival education as part of information science studies: the case of Israel
- ・マリアン・ホイ（オーストラリア）「レコードキーパーのための学習戦略を設計する」 Marian Hoy, Designing learning strategies for recordkeepers
- ・ムーン・ウオン・ソール（韓国）「公記録管理革新と教育上のインフラストラクチャー—韓国の事例—」 Moon Won Seol, Innovation of public records management and its educational infrastructure: a case of Korea
- ・第3セッション討論

閉会式

- ・閉会挨拶（ハンス・シュクコグヘル Hans Scheurkogel ICA/SAE委員長、オランダ）
- ・専門セミナーの総括（高橋実実行委員会委員長）

公開講演会

10月20日（金）午後1時～6時に「記録の未来—電子時代におけるアーカイブズ学を考える—」と題して、学習院大学西5号館B1教室で開催された。平日であったにも関わらず200名をかなり越す参加者があり盛況だった。専門セミナーの海外参加者もほとんどが出席していた。

ハンス・シュクコグヘルICA/SAE委員長の主催者挨拶と学習院波多野敬雄院長の来賓挨拶、ならびに安藤正人実行委員による趣旨説明のあと、専門セミナーの主報告者をつとめたキャロライン・ウィリアムズ、ルチアナ・ドゥランチ、カレン・アンダーソンの3人による講演が行われた。タイトルは次の通り。

- ・キャロライン・ウィリアムズ（イギリス、リバプール大学アーカイブズ学センター長）「アーカイブズ学理論と実践—評価選別の文脈から—」 Archival Theory and Practice in the Context of Appraisal
- ・ルチアナ・ドゥランチ（カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学教授）「アーキビストの役割における連続と変容—インターパレス・プロジェクトの成果から—」 Continuity and Transformation in the Role of the Archivist: The Finding of the InterPARES Project
- ・カレン・アンダーソン（オーストラリア、エディス・コーワン大学教授/ミッド・スウェーデン大学客員准教授）「専門職間のパートナーシップでアーカイブズ学教育の未来を確かなものに」 Professional Partnerships Insuring Archival Education Programs for the Future

なお、公開講演会翌日の10月21日（土）は、海外からの参加者向けに栃木県立文書館の協力を得て日光ツアーを企画し、ほとんどの海外参加者が加わって楽しい一日を過ごした。

今回の「第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議」の成功は、2年前から準備を進めてきた実行委員各位の努力はもとより、

国外・国内の多くの関係機関・団体ならびに
関係者の方々の絶大なるご支援、ご協力のた
まものである。心より感謝申し上げたい。